

山口県山陽小野田市農業委員会 田尾 光一 会長

山口県山陽小野田市農業委員会の田尾 光一 会長に、同市郡（こおり）・川東（かわひがし）地区で圃場整備事業の推進を通じた農地の利用調整活動についてお話を伺いました。

●田尾会長の活動

田尾さんは、JR西日本を退職後、郡・川東地区で、稲作のかたわら、ほくほくとした食感で甘みの強い「寝太郎かぼちゃ」を栽培する農家である一方、令和2年7月から山陽小野田市農業委員会会長に就任されました。

田尾さんは地域のリーダーとして、長年圃場整備の推進に尽力され、令和2年5月に設置された圃場整備事業推進委員会の事務局長として活動されています。

田尾会長



●強いリーダーシップで圃場整備事業の実現

山陽小野田市厚狭地区にある郡・川東地区は、狭小な農地や湿田、未整備の水路など、耕作条件面で不利な状況が続いていました。

田尾さんは、このままでは担い手への農地の集積が困難と考え、平成20年度に行った圃場整備の導入に関する意向調査を足がかりに、関係機関との勉強会や地域の会合等で話し合いを進めていき、圃場整備事業に関する農地所有者の賛同を得ることができました。

その後も、行政への強い働きかけなど地道な活動を重ね、平成31年度には地区の農業者と行政機関が参加する圃場整備準備委員会の会合を開催するに至りました。

●人・農地プランの実質化を推進

圃場整備実施に係るアンケート調査で、地域の実情が把握できたので、事業展開とともに地域の将来像が明確なものとなりました。

また、地域のイベントでのPRや圃場整備の概要をまとめた「かわら版」を回覧板へ盛り込むことなど周知活動にも取り組まれており、田尾さんの「楽しい農業・農村にする」との思いが、農家の方以外の人にも浸透し、地域一体となった草刈りや水路の管理等の地域を守る行動に結びついています。

田尾さんの熱意が地域の積極的な取り組みに繋がるよう、益々のご活躍を期待しています！



かわら版

山口県岩国市農業委員会 梅川 仁樹 会長

山口県岩国市農業委員会 梅川 仁樹 会長に、同市錦町向峠（むかたお）地区における新規就農者の確保の取組についてお話を伺いました。

●梅川会長の活動

梅川さんは、向峠地区で就農後、35年にわたって地域特産である本わさび栽培に取り組む一方、平成16年から農業委員、平成28年から農業委員会長に就任するとともに、山口県農業士協会の会長として新規就農者の確保に取り組んでいます。

本わさび生産では、超促成栽培技術によるわさび農家の所得向上を図るとともに、新規就農者に対して農地はもちろんのこと、住居の斡旋も積極的に行うことで、定住につながるよう取り組んでいます。



梅川会長

●地域の担い手確保に向け、法人設立から営農まで一体的に支援

加工用わさびの需要が近年増加する中、機械化が困難であり栽培期間の長いわさびを生産する担い手の高齢化・後継者不足が課題となっています。

向峠地区でも同様の悩みを抱えていたところ、地元の山口FGが設立した（株）バンカーズファームからわさび栽培による参入について相談があったため、梅川さんが地区内の農地の確保するとともに日頃の農業委員会活動で収集した空き家情報を活用し、住居の確保も行う等、営農開始に向け支援を行いました。

わさび栽培については、梅川さんが長年の経験で培ったわさびの土耕栽培による超促成栽培の指導も行うことで一年を通じた収益の確保を目指しています。

このバンカーズファームの取り組み以外にも、3年間で6名の就農を実現させ、次世代を担う若手農業者を積極的に支援しています。

●地域の活性化は地域内の情報収集から

梅川さんは「地域の活性化は農地の確保だけでなく、就農者が地域に住むことにより実現する」との思いから、まずは地域内の情報収集を図るため、農業委員・農地利用最適化推進委員や農業者と地域の巡回を行っています。

この「現場主義」の熱意が地域の積極的な取り組みにつながっています。益々のご活躍を期待しています！